

報告事項才

企画展「生誕110年 岡本太郎—パリから東京へ」の開催について

企画展「生誕110年 岡本太郎—パリから東京へ」の開催について、別紙のとおり報告します。

令和3年1月20日

鳥取県教育委員会教育長 山本仁志

企画展「生誕110年 岡本太郎—パリから東京へ」の開催について

令和3年1月20日
博 物 館

1 概 要

岡本太郎(1911—1996年)は、名実ともに戦後日本における「顔」としてお茶の間にも広く知られた前衛芸術家です。一方で戦後の日本、とりわけ1950年代には、国内でいくつかの展覧会を企画して同時代の欧米の前衛芸術を紹介したことが知られます。岡本がこうした役割を担うに至った背景には、戦前に10年間を過ごしたパリで築いた同地の新進気鋭の芸術家らとの交流が大きく横たわっています。欧米の前衛芸術家達との交友関係は戦後にも続けられ、彼らの作品は岡本を介して日本で初めて紹介される機を得ました。これを契機として国内ではアンフォルメルや抽象表現主義といった同時代の欧米の美術への関心が深まり、1950年代中盤以降の日本の現代美術の進路を定めることになったのです。

会期中に生誕110年を迎えるこの本展では、67点の岡本作品を含め180点を超える同時代の作品を展示し、オーガナイザーとしての岡本の知られざる側面に迫ります。

<見どころ>

(1) 戦前のパリで岡本が親交を深めた前衛芸術家らの作品紹介

前衛芸術家団体「アブストラクシオン・クレアシオン協会」のメンバー、ダリやマン・レイらシュルレアリスト達、そして共に「ネオ・コンクレティスム」を標榜したクルト・セリグマンらが同時代に手掛けた一連の作品をご紹介します。

(2) オーガナイザーとしての岡本の仕事に関連して戦後に活躍した国内外の作家を展観

岡本が1950年代に国内で企画した「第3回読売アンデパンダン展」と「世界・今日の美術展」で紹介されたジャン・フォートリエ、カレル・アペルらの作品、またこうした欧米の作品に感化され新しい表現の模索に取り組んだ国内作家による作品を展観します。

2 会 期 等 令和3年2月11日(木・祝)から3月21日(日)まで 34日間(月曜休館)

3 会 場 鳥取県立博物館2階 第1・第2特別展示室

4 主 催 「岡本太郎展」実行委員会(鳥取県立博物館、日本海テレビジョン放送株式会社)、読売新聞社、美術館連絡協議会

5 協 賛 ライオン、大日本印刷、損保ジャパン、モリックスジャパン、吉備総合電設、三和商事、鳥取県情報センター

6 企画協力 川崎市岡本太郎美術館

7 協 力 岡崎市美術博物館、The Seligmann Center of the Orange County Foundation, Inc.、Weinstein Gallery、Yale University、日本通運、その他

8 料 金 800円(団体・前売・大学生・70歳以上の方:600円)
(高校生以下、学校教育活動での引率者、障がいのある方・要介護者等及びその介護者は無料)

9 関連事業 講演会、関連映画等上映、ギャラリートーク等(別添チラシ参照)

TARO OKAMOTO

生誕
一一〇年

岡本太郎

TARO OKAMOTO. From Paris to Tokyo
- The 110th Anniversary of His Birth

—パリから東京へ



岡本太郎(畫工畫) 1949年 油彩・カンヴァス 川崎市岡本太郎美術館蔵 ©岡本太郎記念館

令和3年

2月11日[木・祝]~3月21日[日]

※会期中の月曜日休館

会場 鳥取県立博物館 第1・2特別展示室 開館時間 午前9時~午後5時 ※入館は閉館の30分前まで
観覧料 一般800円(大学生・70歳以上の方、20名様以上の団体料金600円)・前売600円(一般のみ)

※次の方は無料です。◎高校生以下 ◎学校教育活動での引率者 ◎障がいのある方、難病患者の方、要介護者等およびその介護者



鳥取県立博物館
TOTTORI PREFECTURAL MUSEUM

主催「岡本太郎展」実行委員会(鳥取県立博物館、日本海テレビジョン放送株式会社)、読売新聞社、美術部連絡協議会 協賛 ライオン、大日本印刷、読者ジャパン、モリックスジャパン、青森県会館、S三和商事、TTC鳥取情報センター
企画協力 川崎市岡本太郎美術館 協力 岡崎市美術館、The Soligmann Center of the Orange County Citizens Foundation, Chester, New York; Weinstein Gallery, San Francisco; Yale University; 日本通運

生誕一〇〇年

TARO OKAMOTO From Paris to Tokyo
—The 100th Anniversary of His Birth—

岡本太郎

パリから東京へ

戦後における日本の「顔」の一人であった岡本太郎(1911-96年)。会期中に生誕110年を迎えることを記念して開催する本展は、岡本が戦前のパリで培った前衛芸術家との交友と、戦後の日本において主導した芸術運動との関係に焦点を当てるものです。

岡本太郎は1930年に渡仏し、以降10年にわたってパリに滞在して絵画の研鑽を積みました。早くも1933年には、ハンス・アルプやカンディンスキーらが所属していた前衛芸術家の団体「アブストラクション・クレアシオン(抽象創造)協会」に参加し、同地にて優勢であった抽象絵画を牽引する芸術家らと親しく交流しています。なかでもクルト・セリグマン(1900-62年)と意気投合したことで「ネオ・コンクレティスム(新具象主義)」を標榜すると、岡本の表現は抽象を離れ、次第に具体的な要素の表出へと向かいます。この動向は日本でもリアルタイムで紹介され、下郷羊雄や巖光、阿部展也といった作家の一部の作品には、その解釈と実験の過程を読み取ることが出来ます。

大戦後、岡本は東京を拠点として活動を再開し、精力的に絵画制作を進めるかわら、「夜の会」をはじめとするジャンル横断的な団体の結成に深く関わり、とくに新人作家のあいだで強い存在感を示すようになりました。同時に岡本は戦前のパリで知遇を得た作家との交友をもとに、いくつかの展覧会を企画し、それは戦後日本における美術の動向に大きな影響を与えることとなります。本展覧会の後半では、ニューヨークに拠点を置いていたセリグマンの選出によるアメリカ人作家の作品を加えた「第3回読売アンデパンダン展」(1951年)と、ジャン・フォートリエ、カレル・アペル、カポグロッシらの作品を紹介した「世界・今日の美術展」(1956年)などの記念碑的な展覧会を取り上げます。これらを契機として国内ではアンフォルメルや抽象表現主義といった同時代の欧米における美術への関心が深まり、例えば吉原治良が率いる具体美術協会の活動として結実するなど、1950年代中盤以降の日本の現代美術の進路を定めることになりました。本展では、これまで必ずしも十分に解明されていなかったオーガナイザーとしての岡本の役割を、同時代の展覧会との関係において検証します。パリ時代からの民族学・社会学的な関心のもとに全国の土俗的な文化を取材した一連の仕事とあわせて、先取的かつ精力的な岡本太郎と彼を擁した時代の様相をご堪能いただきたいと思います。



- 1 岡本太郎(複製し複製) 1936(再制作:1949)年 油彩・カンヴァス 川崎市岡本太郎美術館蔵 岡本太郎記念室
- 2 クルト・セリグマン(メムンと夢) 1942年 油彩・カンヴァス 岡崎市美術館蔵 DR
- 3 下郷羊雄(ブームラング) 1935年 油彩・板 名古屋市美術館蔵
- 4 ジャン・アトラン(パンチュール) 1955年 油彩・カンヴァス 一般財団法人草月会蔵 Photo by Y. Uchida
- 5 カレル・アペル(母と子) 1952年 油彩・カンヴァス 大塚美術館蔵 ©Karel Appel Foundation c/o Pictoright/JASPAR 2020 C3397
- 6 吉原治良(作品) 1957年 油彩・カンヴァス 兵庫県立美術館蔵(山村コレクション)

いっしょにみてみて、もくもくが、展示室に小さなお子様とご一緒においでいただき、気兼ねなく作品鑑賞をしていただくための時間として、会期中の毎週木曜日の午前中を「子どもと一緒の鑑賞優先時間」として、ベビーカーを併して、ぜひお越しください。

交通のご案内

JR鳥取駅からバスで
 ①100円バス「くるま(緑コース)」で①(川)に鳥取・県立博物館下車すぐ
 ②ループ橋踏切を渡り③鳥取城跡下車すぐ
 ④砂丘・湖山・寶鏡方面行「西町」下車約400m
 ⑤市内内回り岩倉・中河原方面行「むらへる前」下車約600m
 JR鳥取駅からタクシーで…約10分
 お車で…鳥取自動車道・鳥取ICより約15分
 鳥取砂丘コナン空港から…鳥取駅行連絡バスで「西町」下車約400m

鳥取県立博物館

TOTTORI PREFECTURAL MUSEUM

〒880-0011 鳥取市東町三丁目124
 TEL 0857-26-8042 FAX 0857-26-8041
<http://www.pref.tottori.lg.jp/museum>
 Mail hakubutsukan@pref.tottori.lg.jp

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、本展の会期や内容に変更が生じる可能性があります。最新情報は、鳥取県立博物館ホームページにてご確認ください。



当館HPはこちら

■ 関連プログラム

特別講演会「パリ時代の岡本太郎」

日時:2月11日(木・祝)14時から16時 会場:2階講堂(参加費無料)
 講師:佐々木秀憲氏(川崎市岡本太郎美術館学芸員・本展企画協力)
 定員:70名(申込不要・先着順)

ギャラリートークI(本展担当学芸員による展示解説)

日時:2月13日(土)14時から15時 会場:第1・2特別展示室(要観覧料)

スペシャルアートシアターI「宇宙人東京に現わる」

(1956年、監督:島耕二、82分)
 日時:2月20日(土)14時から15時30分 会場:2階講堂(視聴無料)
 定員:70名(申込不要・先着順)

岡本太郎関連短編映像上映会

「対極主義」「大衆の発見」「縄文の発見」
 「岡本太郎の祭祭空間—パブリックアートの世界」
 日時:2月27日(土)10時から16時
 会場:2階講堂(視聴無料) 定員:70名(申込不要・先着順)

短編映像4本
 (全1時間程度)
 を毎正時より
 6回ループ上映

アートセミナー「岡本太郎と1950年代」

日時:3月6日(土)14時から15時30分 会場:2階講堂(参加費無料)
 講師:尾崎信一郎(当館副館長) 定員:70名(申込不要・先着順)

ギャラリートークII(本展担当学芸員による展示解説)

日時:3月13日(土)14時から15時 会場:第1・2特別展示室(要観覧料)

スペシャルアートシアターII+アフタートーク

「ドキュメンタリー映画 岡本太郎の沖繩(完全版)」

(2018年、監督:葛山喜久、130分) 定員:70名(申込不要・先着順)
 日時:3月20日(土)13時から16時 会場:2階講堂(視聴無料)
 アフタートーク講師:葛山喜久氏(本作品監督)



お客様の満足の**その先へ**……

MORRIX
 株式会社モリックスジャパン
 TEL 0857-23-3641
 本社 鳥取市高梁町203-6
 倉吉店 倉吉市下田中町870 中瀬ビル3F
<http://www.morrix.co.jp/>

We Find the Way

日本通運
 NIPPON EXPRESS
 鳥取支店 0857-28-0202